

2009.4.1

BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM NEWS

パリにて「バガテルきもの展」
を開催しました

パリ市内の「きもの展」ポスター



展示室の様子

明治時代の女官の
掻取(打掛)

「きもの展」が紹介された記事

左上: "Le Monde 2" (雑誌)

下: Le Monde

着付けのデモンストレーション



バガテル公園の花

きもの
Kimonos
à Bagatelle



2008年は日仏交流150周年に当たり、これを記念して「バガテルきもの展 — 花・草・木の文様 —」をパリ市バガテル公園内のトリアノン館およびギャラリーにおいて5月16日より7月15日まで開催しました。この展示は文化学園とパリ市が共催し、公園の豊かな植物と関連させた花・草・木の文様のきものを中心に、着用の目的に応じたきもの、きものの影響を受けたドレスなど約60点を出品しました。

来場者は過去最高の10万人にも達し、きものの文様や染織の技を鑑賞いただいたのと同時に、きものを通して日本人の美意識や自然観の一端にもふれていただくことができました。本展はフランスのメディアにも大きく取り上げられ、「フランス庭園に咲いたきものの華」「何世紀にもわたり受け継がれた美」「繊細の極みに敬服」などと賞賛されました。

開催に先立って5月15日には内覧会とレセプションを行い、在仏日本大使、パリ市副市長、モード関係者、ジャーナリストなど多くの方々に出席いただきました。また、きものについての理解を深めるために、6月14日、15日には着付けのデモンストレーションも行いました。



レセプション会場の様子

*本展は次の方々に後援、協賛、協力をいただきました。

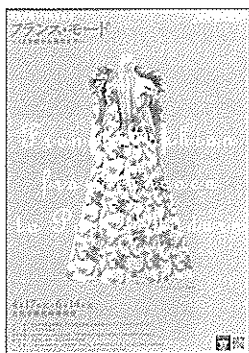
後援/在仏日本大使館 東京都

特別協賛/森ビル株式会社 株式会社鈴乃屋

協力/国土交通省 JUNKO KOSHINO

フランス・モード —18世紀から現代まで—
4月17日～6月14日

日仏交流150周年記念の年にあたり、記念事業のひとつとしてフランス大使館の後援のもと「フランス・モード —18世紀から現代まで—」を開催しました。本展は服飾博物館、文化学園図書館、文化学園ファッションリソースセンターのコレクションの中から、フランスで製作、着用された18世紀中頃から20世紀の衣装と当時のモード雑誌約100点で構成しました。ルイ14世の時代から現代のパリ・コレクションに至るまで、フランスが古くからモードを国家の産業としてとらえ、いかに戦略的に育成発展させてきたかがテーマになっており、ドレスの流行の変遷をたどりながら、モードと産業、経済のつながりを考えるよい機会となりました。



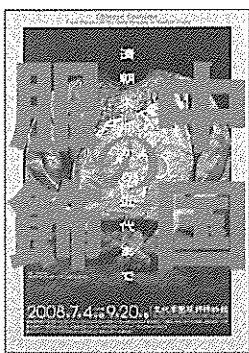
1873年刊のモード雑誌
(文化学園図書館蔵)



19世紀後半のドレス

中国の服飾 — 清朝末期から近代まで —
7月4日～9月20日

北京オリンピック開催に合わせ、服飾の面から中国の文化を見直そうと企画しました。服飾博物館は、長い時間をかけて収集された清朝末期から辛亥革命前後にかけての中国の激動の時代の服飾資料を多数所蔵しています。今回はその中から、厳しい服制にもとづいた「清朝官吏の服飾」、文化の爛熟期にあって優美な色彩や文様に彩られた「宮廷女性の装い」、洋風化によって変化していく「近代の服飾」、中国の影響を受けて発展した「周辺民族の服飾」に分けて展示しました。本展示会は新聞各紙をはじめ、中国の専門誌やNHK教育テレビ「新日曜美術館」のアートシーンなどでも取り上げられ、多くの方に来館いただきました。



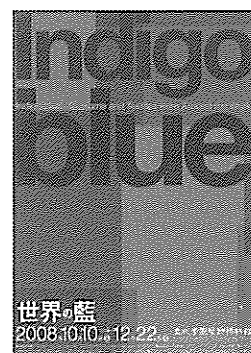
宮廷女性の装い



周辺民族の服飾

世界の藍
10月10日～12月22日

藍は世界各地で用いられている植物染料で、地域によって使用する植物の種類や染色方法は異なりますが、広く親しまれてきました。本展では、日本をはじめ世界約40か国の藍染の衣装や布を紹介しました。藍染とともに用いる染色技法や素材、藍の色味や風合いは地域によってさまざま、観覧者からは「藍染がこんなに多くの地域で行われていることに驚いた」、「やはり日本の藍染はすばらしい」といった感想が寄せられました。藍染や青に対する考え方には各地域の宗教や文化も影響しており、語られることの少ない藍の奥深い世界を知っていただけました。藍染を通して、日本と世界の優れた染織文化を再認識していただくことができたのではないのでしょうか。

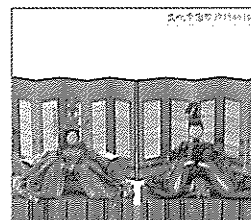


日本の藍

中国南部～東南アジアの藍

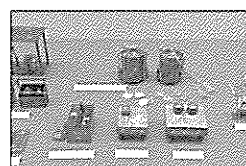
おひなさまと装束・調度
'09年1月30日～3月14日

本展では、さまざまな「おひなさま」と、雛人形の衣裳と雛道具に因み、実際に用いられた「装束・調度」を紹介しました。「おひなさま」の展示では、毛利家より大村益次郎（幕末、維新の兵法家）家に伝わった江戸時代末期の古今雛や、各地に伝わる郷土雛などを展示しました。古今雛は33体の人形と、40余種の道具からなる一揃いで、特に道具類は実物を細部まで精巧に模して作られています。「装束・調度」では賀陽宮敏子妃着用の十二単や三井高棟着用の束帯、和宮所用の書棚や楽器、三菱財閥の創始者岩崎弥太郎の孫、沢田美喜所用の婚礼道具一式など、実際に用いられた装束と調度を紹介しました。おひなさま、装束、調度を合わせて展示したことにより、雅な世界を身近に感じられたとの声が聞かれました。



おひなさま・装束・調度

2009.1.30～3.14



細部にわたり精巧に作られた雛道具



実際に着用された装束

「ぐるっとパス」に参加しています。

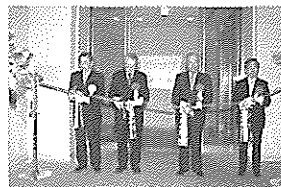
「東京・ミュージアムぐるっとパス」は、東京都内の66の博物館・美術館などの入場券や割引券が綴られた便利なチケットブックです。有効期限は2ヶ月間で、エリアやジャンルから施設を自由に選び、見学することができます。2009年度からは当館も参加することになりました。今後、他の参加館とも連携をはかり、幅広い層の方々にご来館いただけるよう願っております。「ぐるっとパス」は当館受付でもお買い求めいただけます。是非ご活用下さい。＊「ぐるっとパス」のご利用方法、参加施設情報などは、東京都歴史文化財団ホームページをご覧ください。



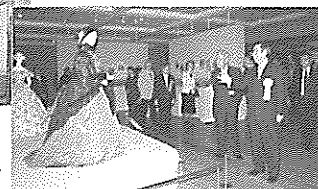
「ぐるっとパス」(写真は2008年度版)
1冊 2,000円

「フランス・モード」展 オープニング・レセプションを行いました。

4月24日に「フランス・モード」展の開会式およびレセプションを行いました。開会式では、東京国立博物館館長 佐藤禎一氏、森ビル株式会社社長 森稔氏、株式会社鈴乃屋社長 小泉章氏、大沼淳文化学園理事長がテープカットを行いました。レセプションには報道・出版関係者、ファッション関係者、フランス大使館関係者など多くの方々にお集まりいただき、華やいだひとときとなりました。



テープカット 左から大沼理事長、
東京国立博物館館長 佐藤禎一氏、
森ビル株式会社社長 森稔氏、
株式会社鈴乃屋社長 小泉章氏



来賓に展示品の解説
をする大沼理事長

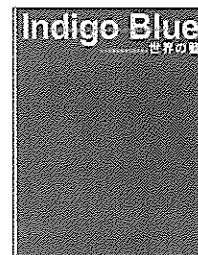
「シルクロードの彩り」展を開催しました

4月18日～25日まで文化コスチュームギャラリーにて「シルクロードの彩りー中央アジアの民族衣装」展を開催しました。この展示は文化女子大学のファッション・ショーにおいて、日本ウズベキスタン協会から協力を受けたことに関連して行われたものです。展示では、服飾博物館の所蔵するウズベキスタンやトルクメニスタンの民族衣装や装身具など約50点とともに、現地の暮らしぶりや風景を写真で紹介しました。



『世界の藍』刊行

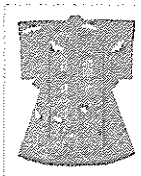
10～12月に開催した「世界の藍」展にあわせ、図録『世界の藍』を刊行しました。この本では、藍染の衣装や布を日本と外国に大別し、39ヵ国、約100点を紹介しています。日本のみならず世界各地の藍染を紹介するこの図録は、長年にわたり各国の資料を収集してきた服飾博物館ならではのといえます。藍染とともに用いる染色技法や、藍染や青色に対する考え方は地域によって違いがあり、各地域を比較することでさまざまな事柄が見えてきます。また、日本の藍染も階層や地域によって異なり、さまざまな藍をご堪能いただけます。



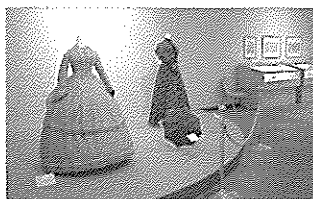
『世界の藍』
カラー56、モノクロ4ページ
A4ワイド判 1,000円

館外の展示への協力・・・「バガテルきもの展」の他にも、所蔵資料の貸出など館外の展示に協力しました。

- 「ポーラ・コレクション 美を競うーマリー=アントワネット、大奥の粧いと香りー」・・・ドレス 4点
6月16日～7月15日 会場=ふくやま美術館
- 「サンパウロ ファッションウィーク」・・・きもの(婚礼衣装) 3点
6月17日～23日 会場=ブラジル サンパウロ ビエンナール会場
- 「明治天皇と維新の群像」展・・・和宮の守刀 1点
10月4日～11月24日 会場=明治神宮文化館 宝物展示室
- 「怒濤の幕末維新」展・・・和宮の懐剣拵 1点
11月6日～28日 会場=憲政記念館
- 「刺繍でつづる母の愛ー少数民族の刺繍工芸」展・・・資料調査と展示協力
'09年1月23日～2月22日 会場=日中友好会館美術館



婚礼衣装



「美を競う」展示風景



「刺繍でつづる母の愛」
ポスター

4月15日～6月13日 *4/24、5/15は19:00まで開館

優品でたどるヨーロッパ・モード

めまぐるしく変わる近年のモード。その中には過去のスタイルを彷彿させるものも少なくありません。本展では、今日のモードの基となった18世紀のロココ時代から1970年代までのヨーロッパの女性のモードの変遷をたどり、その流行が生み出された背景を探ります。また本年が服飾博物館開館30周年の節目にあたることから、特に所蔵資料の中から優品を選び展示を構成いたします。



イブニング・ドレス
1955年頃 フランス
ディオール

イブニング・ドレス
1908年頃 イギリス
アレクサンドラ王妃着用



イブニング・ドレス
1956年頃 フランス
バレンシアガ

7月7日～9月30日【夏期休館:8/9-16】 *7/26、8/30は開館
*7/10、9/11は19:00まで開館

赤い服 — 日本と世界のさまざまな赤 —

服飾の「色」は、形や文様などと共にその服飾を構成する大きな要素であり、国や民族によってさまざまな解釈が与えられます。特に「赤」は太陽や生命力を表す色として、魔除けとして、また権威を表したり、華やかさを演出する色としても使われています。展示では、所蔵品の中から日本と世界各地のさまざまな赤い服や服飾品を紹介します。また茜や蘇芳など、赤の染料についても触れていきます。



鍍直垂
江戸時代後期



レセプション・ドレス
1880年代 イギリス



サリー
インド
1980年代

10月22日～12月19日 *11/3は開館
*11/13、12/4は19:00まで開館

三井家のきものと下絵(仮題)

豪商として知られる三井家に伝来した江戸時代後期から明治時代にかけての「きもの」と「下絵」を展示します。これらの意匠は同時代の他のきものと比べ、絵画的、写実的な特徴をもっています。三井家は円山応挙を祖とする円山派と交流があったことから、「きもの」の意匠と円山派の様式との関係に焦点を当て、また、絵画とは異なる「きもの」の意匠の特性についても探ります。



打掛
江戸時代後期 三井家旧蔵



下絵
江戸時代後期 三井家旧蔵

'10年1月26日～3月14日 *3/14は開館
*2/5、2/12は19:00まで開館

パレスチナの民族衣装

世界最古の文化を生んだ肥沃な三角地帯の一角を占めるパレスチナ地域。聖地エルサレムを包含し、宗教と文化が複雑に交差することで現在もさまざまな問題を抱えています。展示では、イスラエル建国以前の20世紀前半のパレスチナの民族衣装を紹介します。母から娘へと伝えられる伝統文様を刺繍で表したドレスは、地域ごとに異なる特色があり、ふるさとの地を追われて難民となったパレスチナ民族の貴重な財産といえます。衣装とともに特徴的な装身具や周辺地域の民族衣装も紹介します。



ベール・シェバ地方の衣装
1930年代

額飾り
20世紀前半



ベツレヘム地方の衣装
1915年頃

* 上記の予定は都合により変更されることがあります。

Information

- 開館時間 10:00～16:30 *各展示会期中2回、19:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日 日曜日、祝日、振替休日、展示替の期間
- 入館料 一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円
*()内は20名以上の団体料金
- 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分
(地下道出入口O-1に隣接)

文化学園服飾博物館

〒151-8529
東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL. 03-3299-2387

学校法人 文化学園 <http://www.bunka.ac.jp>
文化女子大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院
/文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館